

第17回 人間・環境学フォーラム 新入生歓迎記念講演会

『さわる・ふれる』

4月6日（金） 16:30-18:00 大学院棟地下大講義室

司会 岡 真理（人間・環境学研究科共生文明学専攻）

香りを聞く、色を嗅ぐ

篠原資明 教授（人間・環境学研究科共生人間学専攻） 16:35 — 17:05

あいだ哲学と交通論。自分の理論的立場を、そう呼ぶことにしている。なんであれものごとは、単独で孤立して起こるのではなく、〈あいだ〉で生起する。交通とは、その生起のありようをいう。この立場からすれば、感覚の問題についても、視覚や聴覚といった個々の感覚を単独に扱うのではなく、複数の感覚の〈あいだ〉を探るところから、アプローチされねばならない。

このたびは、嗅覚を手がかりとして、諸感覚の〈あいだ〉について考えてきたことの一端を紹介したい。嗅覚に注目するきっかけは、ほかでもない、日本語特有のいい方にあった。たとえば、聞香という言葉がある。お香を聞き分けるという意味合いで使われるこの言葉は、文字どおり、嗅覚と聴覚の〈あいだ〉について、何か重要なことを指ししめしているのではないか。また、「匂い」という日本語は、古くは、ある種の色のありようを意味していたが、次第に嗅覚的意味合いのものへと変わっていった。この場合は、嗅覚と視覚の〈あいだ〉が問題となる。このように香りや匂いが浮かび上がらせる諸感覚の〈あいだ〉について、現代の芸術から例を引きつつ、お話ししたい。

サルに学ぶレトロ・ウイルス感染症

～病原ウイルスの由来・伝播と感染病態モデル～

三浦智行 准教授（京都大学ウイルス研究所） 17:10 — 17:40

今回のフォーラムのテーマは“ふれる”ということである。私は、ウイルス研究所感染症モデル研究センターに所属しており、感染症は“ふれる”ことに密接に関連したテーマだということでお話をさせて頂くことになった。一口に感染症といっても、その原因はウイルス、細菌、真菌、原虫、寄生虫、プリオン等様々であるが、私はウイルス、その中でもレトロウイルスを研究対象としている。ヒトに病気を引き起こすレトロウイルスとして、エイズの原因となるヒト免疫不全ウイルス(HIV)と、成人T細胞白血病の原因となるヒトT細胞白血病ウイルス(HTLV)が知られているが、それぞれ類似のウイルス(SIV/STLV)をヒト以外の霊長類も保有している。本講演では、主としてアフリカのヒトやサルより分離された様々なタイプの HIV/SIV および HTLV/STLV の分子系統解析について説明し、これらウイルスの由来・伝播について考察する。また、急務とされるエイズ予防・治療法開発のためには、感染個体レベルで実験的に解析できる動物モデルが必須であるが、HIV-1 が感染する動物種は限られている。我々は、アカゲザルに感染する SIV の外皮蛋白遺伝子を中心とした約半分のゲノム領域を HIV-1 のものと置き換えたサル/ヒト免疫不全キメラウイルス(SHIV)を作製することにより、エイズのサル感染モデル系を確立した。この SHIV-アカゲザルのモデルを用いたエイズの病原性研究についても紹介する。

京大 Open Course Ware, http://ocw.kyoto-u.ac.jp/jp/gs_humanenv/course01/index.htm にある資料を参考にして頂きたい。